

平成 29 年 4 月 15 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム 平成 29 年度第 3 回

紹介書籍 ー人生の証を何で残すかー

最初に本日の紹介書籍を回覧します。『国のつくり方 ー明治維新人物学』(渡部昇一・岡崎久彦著 致知出版社)です。

前回のフォーラムでもご紹介した『中曽根康弘句集 2008』(北溟社)は、今、パッとページを開いても、「友去りて夜寒の底のこたつかな」「生きざまはかくの如きかあめんぼう」と、良い句が並んでいます。文章と違って、俳句や短歌は決められた枠の中で、決められたリズムで自分の気持ちを吐露するから、心の内が素直に出ていると思います。

ちなみに、山田方谷の漢詩も心の内が諸に出ています。山田方谷は書いた文章を全部処分しています。手紙は散逸しているので残っていますが、自分で書いたものはありません。山田方谷の思想を知りたいと思うと、漢詩が一番ではないかと思います。

中曽根先生の書かれた本を何冊か読みましたが、やはり文章となると、どこか氣取って格好よく書いてあります。その点、俳句には心の中が素直に出ているなど感じます。ただ、周りの方にお聞きすると、一票を意識して書いているとの事です。専門家が俳句を作る場合は、幽玄な世界に身を置いて心が浄化されたような感覚で作る方が多いと思います。中曽根先生の俳句は、第一に分かりやすい言葉を使っていて、この人に一票を入れてみたいなど思わせるような内容の俳句だと思います。

翻って、皆さんは自分がこの世に生まれた証しを何で残しますか？ 文章で残す人もいるでしょうし、俳句や和歌で書く人もいます。どのように残すかは、本人の好きな方法でなされれば良いと思います。

日記を残すというのも一つの形態です。佐藤栄作さんの『佐藤栄作日記』(朝日新聞社)は、中身は日記ですから、<何月何日、誰と会ってどうした>とその日の出来事が書いてあります。特に、名前をフルネームできちんと書いている点は、大分意識されたのだなと感じます。

日記はだいたい自分の腹の中、本音を書くわけですが、政治家が書く日記は後世に残ると思って書いているから、当然、氣取りはありますね。本音を書く日記は、誰でも経験が

あると思いますが、最後燃やしてしまいたいと思うのではないのでしょうか。ですから、残す日記と、残さない日記があるかもしれません。

それから自伝を二冊ご紹介します。『高橋是清自伝』上下巻（中公文庫）と『ドラマ自伝』（文春文庫）です。『高橋是清自伝』は高橋是清の大臣秘書官を務めた上塚司さんという政治家が書いています。自分の心の内を素直に吐露している内容であると高橋是清が認めて、高橋是清自伝となっています。『ドラマ自伝』の方は本人が書いています。

日記も自伝も後世に伝えるという目的で書いているものと、自分自身の生まれてきた証、人生の証を残そうとして書いているものがあると思います。

もう一冊、『最終目標は天皇の処刑 ―中国「日本解放工作」のおそろべき全貌』（ペマ・ギャルポ著 致知出版社）も回覧します。チベットという独立している国が中国にどのように侵略され併合されていったのか、その経緯が書かれていますが、私からするとペマ・ギャルポさんの自伝だと思います。中国の実態、チベットの実態を知ってもらいたいという願いで書かれた本なので、今の日本人にとって読んでおいたほうがよいと思ってご紹介しました。

今日は、5冊ご紹介しました。皆さんが本を選ぶ参考になればと存じます。

ちなみに、本の後始末は結構大変です。私が漢文を教えて戴いた石川梅次郎先生は本がたいそうお好きで、亡くなられる寸前まで本を買い続けておられました。大きな家には書架が作られていて、図書館のように膨大な数の本が詰まっていました。敷地内には戦前からお住まいのこじんまりしたお宅があって、奥様と住んでおられました。そこにお邪魔すると、すべての壁面にびっしり本が積み上げられていて、まるで蟻地獄のようでした。その真ん中にちょこんと先生が座っておられるのです。どこに何の本があるか、先生は分かっておられました。先生は亡くなられた後、それらの本は息子さんがそっくりそのまま継承しておられます。

私の学生時代の同期の石崎俊明さんの場合、亡くなった後に奥様から私に本の処理について相談があり、本人が思いを込めて買って読んだ本をそのまま処分してしまうのは忍びないので出来れば勤めていた大学に寄贈したいという要望でしたので、私が大学の理事長に相談しました。最近の本の寄贈をあまりお受けしていないことにしているとのことでしたが、必要な本以外は処分しても構わないというのならお引受けしますということで、処

分を含めすべて大学にお任せしました。おそらく石崎文庫というような形で残してあると思います。

公益財団法人郷学研修所・安岡正篤記念館の場合は、全国のお弟子さんたちから色々な蔵書が送られてくるそうで、以前は人手も余裕があって、〇〇文庫という名前をつけて残していたそうですが、今は区分けをしたりする手間が割けないので、そのまま積んであるそうです。

私自身の自戒も含めて、本を沢山買うのは結構ですが、自分が死んだ後に残された人が大変です。最後は自分で処理するのが良いでしょう。古本屋さんに出して処分する方法が一番多いのですが、出来れば次の世代に残したい本を区分けして、家族に残すとか、大学や図書館、財団・社団法人等に事前に寄贈してしまうのが良いと思っています。

木内信胤先生の場合、先生の書かれた記録や残された膨大な資料に関しては歴史的な価値があるということで、大学の先生が遺族から譲り受け、きちんと整理して、最終的に国会図書館に目録をつけて収めました。現在は、だれでも閲覧できるようになっています。

というので、本や資料をどのように次へ残すか、今のうちから考えておくとよかろうと思います。もっとも今の時代は小さなメモリーに保存できますから、そうやって保存する方もおられるかもしれません。

これからの10年 一人として・組織として

おかげさまで10周年記念式典が成功裏に終わりました。有難うございました。これからの10年というテーマでお話を致しましたが、話が足りなかったという感想をお聞きしました。確かに、さわりの部分しかお話出来ませんでしたので、今日はその分お話致します。

記念式典ではシムックスと群馬郵便逓送から若い社員が併せて25名手伝いに来てくれました。彼らから感想文をとりましたら、「学びたいという人は輝いているし迫力があつた」「学ぼうとする意欲のある方々の集りに入って、圧倒された」という感想ばかりでした。皆さんの学ぼうという意欲が、若者に与えた影響は計り知れないと驚きました。ですからこの10年間で、中斎塾フォーラムには学ぼうと思う人、学びたいと思う人が残り、お金儲けをしようという目的の人はいなくなったということがはっきりしたと思います。

中斎塾フォーラムは10周年を機にこれからどういう方向に行くか。個人としては、学びたいと思う意欲を更に磨き上げて戴く。そして井戸を2つ、3つ持って戴きたいと願っています。これは誰にも負けないという自分の専門を、どんどん掘り下げて戴きたい。中斎塾フォーラムは学ぼうという方にヒントを差し上げる場所です。学ぶという意欲を持ったなら、テーマを決めて掘り下げて下さい。

先ほど川村代表が挨拶の中で、佐藤一斎の三学戒に触れました。「少にして学べば則ち壮にして為すことあり。壮にして学べば則ち老いて衰えず。老いて学べば則ち死して朽ちず。」佐藤一斎の故郷、岐阜県岩村町には三学戒の碑が建っています。佐藤一斎については、小泉元首相が当時大蔵大臣だった田中真紀子さんに『重職心得箇条』を渡したということでも有名になりました。更に小泉さんは国会の教育改革関連法案の説明で「三学戒」を引用しています。佐藤一斎のお弟子さんの話は何度も申し上げていますが、佐藤一斎の考え方が弟子・孫弟子に受け継がれ、明治維新を成し遂げてゆく大きな原動力となりました。せっかくですから、川村さんは佐藤一斎についてどんどん掘り下げて戴くとよろしいでしょう。今井理事が現在、高橋是清について掘り下げておられますが、皆さんもご自分で興味のある人物を選んで、せっせと井戸を掘って戴く。そうすると自然と発表したくなりますから、今井さんの次に続く方を期待しております。

10周年記念式典を境にいくつか新しい芽が出てきました。一つは、100年経営研究機構という団体から6月に講演を依頼されておりまして、事務局の方が記念式典に来てくれました。これについては、國分評議員が1000年企業について研究をしておられるので、御紹介致しました。更に、式典に参加された前橋の方が詩吟を習いたいと言っておられましたので、井澤幹事をご紹介しました。前橋方面で詩吟を習いたいという方が何人か集まれば、私が行ってもよいと思っています。このように芽が出たものは進めていきたいと思っています。

これからの10年に向けて、個人に関しては、更に自分を磨いて戴くことをお願い致します。一つのテーマを研究するのも結構ですし、詩吟を進めていくのも良いし、塾を作るのも良いでしょう。磨き方はそれぞれですから、それぞれの応援をしていきたいと思っています。

次に、組織としては、そういう芽を育む土壌でありたい。そして、常に新しいものの見方を紹介していくスタイルを続け、更に深めていきたいと思っています。それには判断の三原則をフォーラムの中でお伝えして、判断の三原則を拠り所にしていただくのが良いと思っています。

と申しますのは、つい先日、20年ほど前にシムックスの社長室長をしていた方から手紙を戴きました。その方はシムックスを定年でやめた後、ご自分で警備会社を立ち上げておられ、20年経ってようやく会長を引退したという挨拶状をくれたのです。懐かしくなっただけでなく、すぐに連絡をして、20年ぶりにお会いしました。だいぶ歳をとっておられましたが、良い

顔をしていました。その方曰く、会社を経営する中で困った事が沢山あったけれども、判断の三原則がしっかり自分の心の中に入っているので、本質・大局・歴史で判断して実行し何とかやってこられた、と大変感謝をされました。判断の三原則を活かしてくれたのだと思い、嬉しくなりました。

ですからフォーラムでは折に触れて、判断の三原則をどのように活かすかの話をしていきたいと思います。ベースは自分自身の哲学をどう持つかです。自分自身の哲学があれば、それをベースに判断の三原則が自然と使いこなせるようになる。判断の三原則を自得してしまえば、しめたものです。中斎塾フォーラムは判断の三原則が自得できるような組織でありたいと考えています。

そういう組織づくりが出来たなら、次の段階はフォーラムとして情報をどう収集し、分析し、どう発信できるかです。ターゲットを絞って、<これから世の中はこうあるべきだ、こうすべきだ>という内容の情報を提供していく。提言に結び付けていきたいと思っています。最終的に中斎塾フォーラムが、<世界の国々が、それぞれ生き残るためにはどうしたら良いか>という提言をしつつ、尚且つ、組織として自立する仕組みづくりに一歩進めていければよいと思っています。

今、この場所に集まって具体的に話をしていますが、なかなか実行には進んで行きません。例えば危機管理に関して、これからとんでもない時代が来るから自給自足出来る体制を作りましょう、と何度もお話していますが、組織そのものが自給自足できるような組織になれば良いと思っています。つまり提言・実行の組織集団にしていきたいと思っていますので、これから具体的な動きをいくつもしていくつもりでおります。

ということで、中斎塾フォーラムのこれからの10年は、個人としては自分を磨く動きをして戴き、これを応援する。組織としての動きは、情報の発信と提言をし行動する集団、そういう方向へ行きたいと考えています。

そうする中で、おまけで出てくるものがあります。組織として良い言葉を選んで、それに触れ続けていると、自分の琴線に触れる言葉が見つかる。それをしっかり受け止めて、次の人に繋げる。フォーラムの中で皆さんが論語に限らず良い言葉を言い合って、その中で良いなと思った言葉を自分のものにしていく。そうすると、そのうち金鉦にぶつかります。そういう機会がどんどん出るような組織でありたいと思っています。

幾つか、私の頭の中で渦を巻いているものを申しますと、「事上磨錬」「啐啄同機」「知行合一」、論語の中で「利に放りて行えば、怨多し」、それから全く違いますが「心の中

の留め金がカチンとはずれる体験」等々。心の中の留め金がカチンとはずれる体験とは、自得です。詩吟を教えて戴いた坂本坦道先生は、「吟詠は自得にあり」と言われました。私はその言葉をずっと噛みしめています。石川梅次郎先生も同じようなことを言っておられましたし、安岡正篤先生も本の中で似たような言葉を遺しています。ですから皆、どこかで自得があるのです。何かの加減でハッと閃く、悟ることを自得と言います。ご自分の半生を振り返って、この時私は腑に落ちたのだという瞬間が一度でもあったなら、是非記録しておいて下さい。人生後半になればなるほど、自得する機会がどんどん増えていきます。そうすると、いい顔になると思いますし、背筋も伸びてくるような気がします。

判断の重要性

先ほど判断の三原則（本質・大局・歴史）を申しましたが、もう少し具体的な例を挙げてお話しします。

例えば、会社で社員が何か問題を起こしたとします。社内で何か問題が起きた時の私の判断、処罰をするにあたっての三原則をご紹介します。

1 まず、問題となった状況・内容・原因を徹底的に調べ上げて、物的証拠を押さえます。その上で、当人を呼んで、証拠は出さずに、こういう噂話があるけれどもどうなのかと柔らかく聞きます。その時点で素直に認めて反省したのなら、多少のペナルティは課すけれども、ワンチャンス与えれば良いでしょう。

2 当人は、逃れられるものなら逃れよう、シラを切り通そうとする。けれども証拠を突きつけられて認めた場合は、情状酌量の余地はありませんから組織からは離れて貰います。会社としては依願退職を促す。その際、過去の功績によってペナルティを決めればよろしいでしょう。

3、最後までシラを切り通した場合は、懲戒解雇の対象になります。裁判を起こす場合もあります。懲戒解雇となると、当然、会社にも相応の打撃はあります。国から何らかの助成金を貰っていれば、貰えなくなります。

シムックスでも過去に色々な問題がありました。どういう場合も、トップの所に話が挙がって来るのは最後です。問題が表面化してどうにもならない所まで来てからトップに到達しますから、聞いた瞬間に即座に判断し、即座に処理をしなければ会社は潰れます。

私は28歳で会社を創り、58歳で社長をバトンタッチして会長になり、10年して代表取締役会長を降りました。その10年の間に、下手をすると会社が潰れるような事件が3回ありました。きちんと処理が出来たので今日があるわけです。会社が潰れるかどうかはトッ

プの判断が肝心で、その時の思いつきで判断をすると間違えます。原理原則を持っているかどうかによって判断は変わります。ということ、会長を降りてから何度も感じました。代表取締役の時は自分で処理をすればよいわけですが、代表取締役を外れるとアドバイスは出来ますが自分で出て行って自分で処理することが出来ませんから、なかなか難しいところです。ですから後継者に思いを伝えるだけでなく、判断する原則をきちんと伝えておく必要があると強く感じています。

恒例の質問

では恒例の質問を致します。

○ 今年に入って、良い日が続いている方

思わない方は、良い日だと思う火種がちょっとでもあれば、それに息を吹きかけて火を起こせばよいのです。

○ 今年に入って、比較的嘘をついていない方

では、嘘をつかれなかったという方はいますか？ 嘘をつかれたい人間になっていればよいですね。

○ 今年に入って、温もりを感じる有難うを言われた方

10周年を機に、付け加えました。有難うと言われてちょっとホッとしたとか、良い気持ちになったとか、何か心が温まるような有難うを言われている方は手を挙げて下さい。今年は、心のこもった有難うを言われているかという尺度もお持ち下さい。

○ 昨日から現在まで、健康法をした方

皆さん手が挙がりましたから、これは大丈夫ですね。私はいつも歩数計をつけているのですが、先週はずっと家で片付けをしていて歩いていなかったもので、家の中で足上げを300歩くらいやっていました。この運動の時は、意識的に太ももが腹にぶつかるようにしているのですが、100歩を過ぎると自然と足が下がって来て、かなりきつと感じます。健康法も色々工夫を致しましょう。

○ 昨晚寝る時に、明日以降のことを過去形でイメージして眠れた方

明日のことを過去形でイメージするのはなかなか難しいですね。以前も申しました、女性にプロポーズする例が分かりやすいと思います。前の晩、どうやったらプロポーズが上手くいくかやり方を考えながら寝るだけではいけません。ハラハラしながら寝たのでは断られてしまうかもしれません。彼女がプロポーズを受けてくれて、結婚式で皆から祝福されて嬉しいなど思っている瞬間までイメージ出来たら、合格です。

○ 今年に入ってから、自分磨きを続けている方

論語の解説

論語の解説を致しましょう。本日は衛霊公篇 8~9 です。

【九】 しこう じん な と しいわ こう そ こと よ ほつ かなら 子貢 仁を為さんことを問う。子曰く、工 其の事を善くせんと欲すれば、必ず
ま そ き と こくに お そ たいふ けんじゃ つか そ し じんしゃ とも 先ず其の器を利くす。是の邦に居るや、其の大夫の賢者に事え、其の士の仁者を友とすと。

子貢が孔子に、仁を実践する方法を聞きました。

子貢は口八丁・手八丁、目から鼻に抜けるような人物です。その子貢が、仁については十分理解したので、あとはどう実践すればよいかと質問をした。対して孔子が、子貢に合わせて答えています。

「職人が良い仕事をしようとするれば、まず道具を磨く。国にあつては、大夫の中でも優れた人に心から仕え、お手本にきなさい。そして自分自身を磨いてくれる友人とお付き合いしなさい。」

頭脳明晰な子貢はどうしても上から目線で他人を見下すような態度をとるので、子貢の持っているものは曇りがあるから、賢者に仕え仁者に交わって常に自分を磨きなさい、との確な比喩をしています。

【十】 がんえん くに おさ と しいわ か とき おこな いん ろ の しゅう べん 顔淵 邦を為めんことを問う。子曰く、夏の時を行い、殷の輅に乗り、周の冕
ふく がく すなわ しょうぶ ていせい はな ねいじん とお ていせい いん ねいじん あやう を服し、樂は則ち韶舞、鄭声を放ち、佞人を遠ざく。鄭声は淫に、佞人は殆しと。

顔淵が孔子に、国を治める方法を聞きました。

イメージとして顔淵は、一生孔子のそばにいて、どこかの国の総理大臣になるということとは考えていないように思いますが、やはり考えていたのですね。

顔淵は孔子の一番のお弟子さんで、一を聞いて十を知るような人物ですから、このように答えています。

「曆は、農業を主体とした夏王朝の曆を使いなさい。車は、殷の国のような質素な車にのりなさい。冠を被る時は、周王朝の冠を参考にすればよかろう。音楽は、舜帝の韶舞（舜の樂で、孔子が良いと評価した樂）を用いれば良い。鄭の国の音楽を禁止し、おべっか使いは遠ざけよう。鄭の国の音楽は淫らで人心を惑わし、おべっかを使うような人間は人を陥れるからだ。」

「鄭声は淫に、佞人は殆し」の部分は、終戦直後アメリカがとった日本の占領政策と同じです。3S（スポーツ・スクリーン・セックス）を奨励し、日本人のプライド・誇りをなくす、日本から背骨を奪うということでした。骨なし人間を増やせば、その国は危うくなるということですから、「鄭声は淫に、佞人は殆し」をそのまま実行していると読めます。

本日の論語を、回覧した紹介書籍『国のつくり方 一明治維新人物学』を踏まえて考えると、「工 其の事を善くせんと欲すれば、必ず先ず其の器を利くす」の部分は、明治維新の時であれば、武器を磨くとは頭を磨く、知識を増やし自分自身のものの考え方を磨けと解釈できます。そして明治維新では、自分たち日本人の力で国づくりを成し遂げたわけです。その時の「佞人は殆し」というのは、イギリス・フランス・ロシアが佞人の役を果たしました。ロシアは幕府に、日本の国を支えるのは幕府であり続けるべきだと応援を申し入れ、フランスは最後の最後まで幕府支援を申し入れた。それを勝海舟と慶喜将軍が撥ねたわけです。薩長はイギリスから援助を申し入れられたけれども、それを断ったわけです。

お時間が参りました。最後に、先程、良い言葉をいくつか申しました。もう一つ付け加えておきたいのが「知識・見識・胆識、そして洞察力」、これを申し上げて本日の講話を終了致します。有難うございました。